

学校経営推進費 評価報告書（2年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	グローバル人材の育成
評価指標	・TOEFL iBT等のスコア、外部機関の客観的学力診断テストによる学力（スコア）の向上 ・国公立大学・国際関係系学部設置大学進学者数の増加 ・海外大学進学者数の増加
計画名	21世紀型の新しい学校！計画 volume.3

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	2、グローバル時代に対応する教育システムの構築 (2) ロジカル・クリティカルシンキングを理解・実践する。 ア、スキルを学ぶための思考ツールの開発を行う。 イ、開発したツールを使用するための授業方法として、ディベートやプレゼンテーションを行う。 (4) 国際科（グローバル科）開設に向けて、英語教育の充実を図る。 ア、TOEFL iBT以外の外部評価として、GTECを導入する。 イ、「グローバル科設置準備委員会」を中心に、箕面高校独自のカリキュラム等を構築する。
事業目標	平成28年度に改編される「国際科（グローバル科）」設置を強力に推し進め、改編を成功させるために、「21世紀型の新しい学校」を実現が必須となる。方法論としては以下のとおりである。 ①自習室・進路指導室の機能の向上 ②グローバル科設置に伴う職員室の大規模改修とそれに伴う職員室機能の定義の変更 ③教員用ICT機器の充実と研修体制の確立 これにより、現在よりインタラクティブで機能的な授業が展開され、上記評価指標の向上が着実に進む。
整備した 設備・物品	・大型プロジェクター用可動機(1)、外部HDD [2TB] (1)、DVD自動焼き器(1)、生徒用机椅子セット (42)、パンフレット(25,000)、ノートパソコン(10) ・引越時代 [職員室・廃棄料込] (1)、ホームページ作成(1) ・教室用短焦点プロジェクター (1)、体育館用大型プロジェクター (1)、iMac(1)、緩じ機(1)、職員室什器類 [机椅子セット等] (1)、プリンター(1)、配線・コード類 [モル・コード等] (1) ・流し台設置工事(1)
取組みの 主担・実施者	校長を統括責任者とした、「骨太英語プロジェクトチーム」（首席・国際教養部長・進路指導部長・教務部長・英語科主任等）を運営委員会と運動させて毎週会議を実施。職員会議にて報告。
本年度の 取組内容	①自習室は、進路指導部が監督・運営するようになり、開放時間延長で生徒の利用も増加している。また進路指導室の整備がさらに進み、資料の保存引き継ぎが出来た。模試の分析会が定例化され、生徒の学力把握に向け環境が整った。 ②職員室の改修により、各種会議を職員室で行うことで、開かれた学校運営が進んだ（運営委員会も職員室で開催、だれでも傍聴可能）。教科を超えて先生方の交流が進み、生徒指導の意見交換が行われたり、情報共有速度が上がるなど、組織としての動きができるようになった。また授業公開週間を年2回（各1週間）実施できるようになった。
成果の検証方法 と評価指標	・国公立大学への現役合格者を平成25年度26名→平成26年度46名（目標30名）→平成28年度50名に増やす。 ・難関私立大学の現役合格者を平成25年度180名→平成26年度241名（目標200名）→平成28年度270名に増やす。 ・海外大学進学について、最難関については3名、難関については5名を確保する。 ・自習室の利用者1日平均15名（9月）→25名に増やす。 （参考）TOEFL iBT等のスコア、外部機関の客観的学力診断テストによる学力（スコア）の向上
自己評価	※（記号説明）大きく上回った（◎）、上回った（○）、達成できず（△）、実施できず（×） ・国公立大学・難関私立大学・国際関係系学部設置大学進学者数の増加 ・国公立大学現役合格者数 H26 (46名) →H27 (38名) →H28 (39名) (△) ・難関私立大学現役合格者数 H26 (241名) →H27 (260名) →H28 (319名) (◎) ・国際関係系学部設置大学進学者数 H26 (2名) →H27 (2名) →H28 (16名) (◎) ・海外大学進学者数の増加 H26 (2名) →H27 (1名) →H28 (8名) (◎) ・自習室の利用者数1日平均25名（9月） (○) ・TOEFL iBT等のスコア、外部機関の客観的学力診断テストによる学力（スコア）の向上【H27→H28】 ・80over【2名→4名】、60over【8名→7名】、40over【19名→11名】 (○) ・GTEC 1・2年全員受検(7月) Basic(660)で520over【56名→47名】 Advanced(810)で610over【14名→14名】、520over【72名→74名】 (○)
次年度に向けて	・生徒の進路希望を実現するため、国公立大学進学者数の更なる増加をめざす（第一希望の実現を図る）。 そのために、教科による、授業改善や模擬試験結果分析を進める。 ・「(学年)職員室」を経営戦略室と位置づけ、教員間の交流をなお一層進め、現場の教職員から、ボトムアップの形で経営案を集約していく。 ・学校の広報活動はまだ遅れている。入試結果を分析し、必要な地域に必要な情報を提供していくため、ホームページの積極的更新を図る（そのために分掌の改編も行った）。